

## 松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第12回）開催概要

日 時	令和3年5月20日（木） 10:00～12:00
場 所	松戸市役所 新館5階 市民サロン
出席者	伊東朱美、大西達也、影山貴大、佐藤浩、富永尚次、水戸美津子、 渡辺絹代（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課市政総合研究室

### 1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

### 2 「懇談」

#### （1）地方創生交付金事業の検証について

- （1）について事務局から説明
  - ・ 地方創生に関する国の交付金制度の推移（資料1）
  - ・ 地方創生推進交付金 充当事業の令和元年度実績調書（資料2）
- 検証結果（出席者の評価及び意見）

令和元年度実績調書（地方創生推進交付金充当事業）	
事業名称	インキュベーション・コワーキング施設整備運営事業
評 価	総合戦略のKPI達成に有効であった
付帯意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市内の新設法人が前年と比較して47社増えているということは、これからこういった施設の利用者も増えていくだろう。市内の新設法人が増えているのは良いと思うが、逆に東京都に隣接する分、都内で法人設立される方もいると思う。今後、そういった傾向も追っていけば良いのではないかと。</li><li>・ コロナ禍ということもあり、KPI項目「本事業に関連して増加した市内の就労者数」については、令和2年度は未達となったが、今後は「まつど地域若者サポートステーション」等の他施設と連携が有効であると思う。</li><li>・ 施設の認知度は、これから広がる余地が十分にあるので、情報発信に力を入れていけば良いのではないかと。また、今後は市内の民間のインキュベーション・コワーキング施設と連携・協力していくことも大事だと思う。他の自治体</li></ul>

では、自治体内のコワーキングスペース施設間の提携により、登録利用者が提携施設をどこでも利用できるようにすることで、広がりを見せている事例もあり、そういったことにより利用者数向上を図ることができるのではないかと。

- コロナ禍を想定した事業ではないが、結果としてテレワーク・在宅ワークが増加したので、自宅近くで就業できる施設として、また個人でのワークスペースとして活用できる施設として利用が広がったという意味では、有効であったと思う。
- コロナ禍対応として令和2年4月以降にZoomを活用したオンラインセミナーに素早く切り替えできたことで、KPI数値の結果に結びついたのではないかと。また、セミナーや相談等をオンラインにすることで、今までなかったニーズの掘り起こしや、これまで接点のなかった新たな利用者の方の開拓が、結果としてできたのではないかと。こういったオンラインを利用した事業展開は、設備・システムネットワークの整備を含め、今後更に力を入れた方が良くはないか。
- この施設を卒業された方が事業等について商工会議所に相談に来るといった事例もあり、当事業は良い形で稼働していると思う。商工会議所で開催している創業セミナーの参加者は多く、都内からの参加者も見られ、創業について高い意識を持たれている方々がいるので、当事業と商工会議所の連携について、検討していければと思う。
- 今後、相談やセミナーを利用した方々とのつながりを持ち続け、リピーターとなってもらい、施設の利用登録や、商工会議所と連携し起業・創業につなげることで、市内の就業者・就労者が増えていくことに期待する。
- 地方創生では、「男女がともに活躍できる環境づくり、誰もが活躍できる環境づくり」が重要と思うので、今後この事業を女性やシニアの方にも利用しやすいように、一層工夫することにより、更に広がりが出てくるのではないかと。また、最近では起業を考える女性も徐々に増えていることから、今後は女性向けの起業セミナー等を開催している男女共同参画課のような他部署との連携も考えられると思う。
- 市のフューチャーセンターで拾い上げた課題等をインキュベーション施設につなげ、ビジネスの手法でどう解決していくのかというような活動を促していくことができると思う。今後、市の別の事業や別の組織・施設といった横の連

	<p>携により、相乗効果を生み出していくことで、より広がっていくのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、起業・就労を促す活動を、様々な業態毎に行う等、きめ細やかに対応することで、より市民の方のニーズに合ったものとなるのではないかと。</li> </ul>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## (2) 松戸市総合戦略等の検証について

### ○ (2) について事務局から一括して説明

- ・ 最新データで見る松戸市の人口動向（資料 3）
- ・ 総合戦略における数値目標・重要業績評価指標の現状値（資料 4）

### ○ 出席者の意見

- ・ 松戸市は 20 歳から 29 歳の転入が超過している一方、柏市・流山市に同じ年代が流出している傾向がある。今の時代は、生まれてから亡くなるまで同じところにいることを求めることが難しいので、一度出て行ってしまっても、また戻って来られるような魅力を発信し続けていくことが必要だと思う。また、そういった市外へ向けたプロモーションだけでなく、今住んでいる人たちが住みやすさを感じられる街づくりが必要だと思う。
- ・ 人口が 20 万人未満のまちでは「ひととのつながりがある」ということ、20 万人以上のまちでは「快適性・利便性がある」ということが重要視されるというデータがある。松戸市は人口 50 万人に近い都市なので、利便性をもとめる人が多い一方で、地区ごとに特徴があるまちであり、地区ごとに生活者の目線に立った街づくりをすすめていく必要があると思う。一方で、市全体としてはまちの利便性を高めていく行政サービスの整備が必要であり、その二つの方向でまちづくりを考えていけば良いと思う。
- ・ ケーブルテレビ契約加入・解約の動きは、松戸市から柏市や流山市へ移っていったケースが多く、松戸市へは幅広い自治体から移られてきており、松戸市の人口の動きと近い。これを民間の不動産事業者からの情報と照らし合わせると、柏市や流山市は開発の事業が多くあり、30 代から 40 代の働き盛りの世代で、東京都内と比べ住宅価格が安価であること等から多くの人転入してきていると見受けられる。一方、松戸市はこれからの世代である 20 代の人口流入が多い。今後、先ほどのインキュベーション・コワーキング施設整備運営事業の効果が出ていること等、働きやすさ、住みやすさといった面でやっていることを、「いかに魅力的に見せられるか」ということが大事になってくると思う。
- ・ 令和 3 年 3 月まで勤務していた杉並区のエリアの不動産業者との話では、転入が右肩上がりであったが、コロナ禍の影響で春先に初めて転出超過となったということだった。一方、転勤後に東葛エリアの業者と話をす

る中では、逆にかなり転入が増えているという。家賃が都心と比較して安く、住みやすい環境があれば、都心から近隣に移り住んでいる方が多くいるということは、そういった層を取り込んでいく事業を検討すると、効果が高いのではないかと思う。

- 基本目標Ⅱ「高齢者がいつまでも元気に暮らせるまちづくり」で、KPIが未達の項目を見ると、高齢者の方に対する情報発信の難しさを感じる。若い世代に対してはSNS等のネット環境を通して様々な発信ができるが、高齢者の世代にはそれは難しく、最近では紙媒体も少なくなっているため、何かうまく伝える方法はないかと感じている。
- 「歴史のある松戸」といったところをPRして、多くの方に来ていただけるような発信の仕方をしていければいいと思う。松戸は古い宿場町であるといったところを前面に出していければいいのではないか。戸定邸の入館者数はコロナ禍で減少しているが、コロナ禍が収まれば、大河ドラマとの絡みもあり、良い形で発信できるのではないか。また、日帰り旅や御朱印収集の流行に合わせたPRをしていければいいのではないか。
- 「都市ブランドづくり」ということで言うと、学生からは「柏はおしゃれ、松戸はダサイ」という言葉が出てくる。松戸には伝統的な宿場町の良さがあり、とても落ち着いた良い町と感じるし、地区ごとに特徴も感じる。そういった「まちの顔」である駅前についての情報発信があると良いのではないか。うちの大学の学生の活動では、商工会議所と一緒に和菓子マップの制作を行ったりしているが、そういった形で若い人たちを巻き込んで、松戸の良さを発信していくことで、若い人のイメージが「松戸はおしゃれ」といった感じに変わっていけば良いと思う。それによって、20～29歳の若い世代が柏市や流山市に転出されてしまう傾向が改善されれば良いと思う。
- 女性の活躍は、今の日本の中では、男性社会の理解がなければ、なかなか次のステップに進まないと思う。そういった意味で、KPIの「女性の悩みや問題に係る講座等の参加者数」については、女性のテーマに絡めて、家族や男性についてのテーマも一緒に題材とすることで、増えていくのではないかと感じた。
- 一括りに高齢者といっても、前期高齢者と後期高齢者ではかなり状況が違う。前期高齢者については高まりをみせる就業率の動向、後期高齢者については健康の問題といったように、それぞれターゲットが異なるのではないか。総合戦略のKPIではこれと一緒にしているので、前期高齢者のターゲットと、後期高齢者のターゲットを分けて見える形になると良いと思う。
- 数値目標④「0～14歳及び25～44歳の「転入者数-転出者数」」で平成27年以降目標を達成しているところから、トータルとして子育て世代を呼び込む施策の成果が表れていると思う。今後は、今いる子育て世代の子ども

たちが松戸で生まれ育ち、地域を担っていく年齢となったときに、いかに松戸の中で若者を受け止め、定着につなげていくことができるかということが大事だと思う。そのために、多くの子どもたちに地域に魅力を感じ、愛着を持ってもらえるようにすることが重要だ。今後、総合戦略にかかげられている施策を一層推進していくことで、効果が出てくるのではないかと思う。

- ・ 若者に定着してもらうために、インキュベーション・コワーキングスペース施設整備運営事業等も含めて、就業機会の確保が重要であると思う。それにより、子育て世帯の定住化と、その子どもたちに続けて住み続けてもらうという好循環を実現させることで、地域の活性化につなげていくことができると思う。
- ・ 松戸市は20～29歳の層の転入が一番多いものの、近隣の柏市、流山市へ一番多く転出している層でもあることが興味深い。元々いた方が転出されていて、他市から来られている方が残っているのだと思うが、それは他市から来られている方たちが満足されるということではないか。元々いた人たちに対して残ってもらえるように、そういった要素を働きかけていくことができるのではないかと思う。
- ・ 柏市や流山市の開発地区と比べ、松戸駅周辺はマンションも乱立しているし、新たに有効利用できるところがあまりないが、不動産業者からは「松戸地区は住宅や賃貸不動産購入を検討する方に人気がある。しかし、なかなか建てられる場所がない」と聞く。そこから考えると、建て替え等の余地は十分にあるのではないかと思う。

### (3) 次期「松戸市総合戦略」について

#### ア 地方創生をめぐる国・県の動向について

#### イ 次期総合戦略とみなす次期「松戸市総合計画」について

- (3) ア及びイについて事務局から一括して説明
- 出席者の意見

・ デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）とSDGsは当行においても今非常に力をいれている分野である。特にSDGsについては、当行ではそれにかからむローン・資金を準備している。こういったところで情報交換を行って、地元行として一緒にやっていけるゾーンがあれば力を合わせてやっていきたいと思う。

・ これからの基本戦略は、アフターコロナという部分が大きくなって来ると思う。また、DXは今後生活に関わってくる部分なので、大事だと感じている。残念ながら地方行政は個人情報の絡みもあるが、かなりアナログな部分が大いと感じる。国としても今回のコロナ禍への対応において、デ

デジタルの対応で不備や脆弱な部分が見つかったので、今後のアフターコロナのまちづくりには欠かせない部分ではないかと感じた。ただ、DXはかなり範囲が広い分野になるので、目の前の小さなことから取り組むこともできるだろうし、今後の戦略の中に取り入れていくことができれば良いと思う。

- ・ DXについて具体的に進めていく場合は、自治体だけではできないが、市民の生活にも大きく影響してくると思うので、様々な関連先とともに、市民のためにしっかりやっていかなくてはいけないと思う。

### 3 「事務局からの報告」

#### ○ 事務局から説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

### 4 「閉会」

以上